

提 案 書

※ 記入上の注意

- ① 第2号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。
- ② 第2号様式は広く情報公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。
- ③ 資料をA4判2ページまで添付することができます。その際、資料の両側に15mm以上余白を確保してください。
- ④ 提案書、添付書類は、選考委員会委員には白黒コピーで配付します。

提案名 （25字以内）	子ども達が「横浜はじめて物語」を体で感じる体験遊び
グループ名 （25字以内）	NPO法人 悟空研究所
グループの現在の主な地域社会貢献活動の内容及び最近5年以内の実績	子ども達の知育向上のため、郷土の民話を題材とした民話劇の創作活動や創作紙芝居による老人施設慰問、古民具づくりキャンプ等を、子どもゆめ基金の助成を受けて実施している。 その成果として、2008年より毎年、鶴見公会堂で「民話劇」発表公演。「民話紙芝居」での老人施設慰問。上郷森の家での「古民具づくりキャンプ」などを行っている。さらに横浜市障害者スポーツ施設ラポールでの、「ゲームの日」の企画協力と、ボランティア参加をしている。
助成金を受けて行う活動の目的 （「地域における良好な環境や地域の価値の維持・向上」にどう資するか具体的に記入してください。）	江戸末期から明治の日本近代史で、横浜開港は重要な位置にあった。そして、その連綿と受け継がれた近代史の遺産や遺跡は、みなとみらい21地区にかず多く点在している。 子ども達が、自分たちの郷土に愛着を持ち、誇りを持てるように、この歴史的文化遺産を取り巻く歴史物語を、語りかけて子ども達の血肉となるよう体感させるイベントを実施する。 みなとみらい21地区の歴史的文化遺産を子どもたちが、それぞれの能力と感性で見て、感じて、みなとみらい21の特に歴史的側面への好奇心を育むことを目的としている。
助成金を受けて行う活動の内容	みなとみらい21地区に、現存する歴史的文化遺産を取り巻く、歴史物語を子ども達が楽しいクイズゲームをおりこんだ、考える遊びの活動として構成する。 活動はオリエンテーションに始まり、教材による学習を経て現場での体験活動を行い、最後に《「横浜はじめて物語」を体で感じる体験遊び》を実施してみなとみらい21の、歴史的側面を子ども達に実感させて終了する。 このイベントは3部構成とし、 第1部《オリエンテーション》参加する子どもたちに、この体験活動の具体的な内容や、参加のしかたの説明をして、大会に使う資料及び教材を配布する。 第2部《みなとみらい21歴史探訪》旧横浜港駅プラットホーム、赤レンガ倉庫、ドッグヤードガーデンなどから約3～5箇所を選定し探索する。

	<p>第3部《「横浜はじめて物語」を体で感じる体験遊び》 《確認ゲーム》 先ず、横浜はじめて物語をどの程度憶えているかをゲーム形式で確認します。 《メインイベント》 次のような内容をみんなで体感します。 * 「横浜はじめて物語」に出てくる情景を絵に描く創造遊び。 * 体感した内容を理解力や表現力で競技するゲーム。 * ゲームは「横浜はじめて物語」と、みなとみらいの21のいろいろな文化遺産で勉強してきた事柄を基にします。 《まとめと会場整理》 スタッフや仲間たちの異世代間・異年齢間で楽しさを分か合いながら、会場の片付けをして終了します。 子ども達が、この活動から何か伝わってくるものを体で感じて、横浜に生活している喜びが共有され、感性豊かな子ども達の交流の輪を広げる様なイベントとする。</p>
今回の提案の特徴その他特にPRしたい点	<p>子ども達は未来の創造者です。 「横浜はじめて物語」から伝わってくるものを体で感じて、子どもたち同士で理解と感動を共有させることにより、子ども達は新たな想像力で明日をみつめ、新しい感性を磨くでしょう。 この子ども達に、みなとみらい21から横浜の明日を考えさせる、第一歩とし、好奇心と感性の豊かな子ども達を育てる。</p>

● 活動計画

助成金を受けて行う活動の内容を月ごとに記入してください。すでに行った活動がある場合は、そちらも記入してください。

4月	
5月	
6月	
7月	
8月	
9月	
10月	対象とする、みなとみらい21地区の文化歴史遺産の選定と、事前調査及び資料集め。 活動プログラムの作成。
11月	プログラムの検証と、教材の作成。 参加者（小中学生）の募集PR。
12月	発表会イベント会場及び活動地域の確定と準備。 発表会イベントの構成演出計画。
1月	参加者（小中学生）の決定。 《第1部》オリエンテーションと教材の配布。
2月	子ども探索隊による、 《第2部》みなとみらい21文化遺産探索。
3月	《第3部》 《「横浜はじめて物語」を体で感じる体験遊び》開催。 報告書と記録の整備。

2011年活動のチラシ抜粋

民話劇発表会

子ども達が力をあわせて創りあげた楽しい民話劇

プログラム

「よこはまことはじめ」より
「近代水道」(一幕三場)
神奈川県のみ話より
「樽見橋」(一幕三場)
「羽衣伝説」と「川茂の太郎杉伝説」より
「天女と杉太郎」(二幕五場)



2011年2月13日(日)
鶴見公会堂
午後2時開演

2011年度民話紙芝居づくり

民話を学び子どもたちで創る紙芝居で、施設を慰問します。

かみしばい

つく

いもん

『紙芝居』を創って慰問しよう。



団体内の抜粋（子ども関連ページ）

子どもたちの知育向上のための活動

独立行政法人国立青少年教育機構「子どもゆめ基金」の助成を受けて、郷土の民話を題材とした、演劇や紙芝居などの創作活動や、さまざまな体験活動を行っております。

郷土の民話劇づくり

★民話劇の創作による子どもと大人の交流体験

子どもたちが、民話探しから始め台本を作り衣装を作り、ダンボールのキューブを使って簡単な舞台装置や、大道具も作ります。声の出し方や体の動かし方など練習をします。身体全体で表現する感情の表し方などをみんなで研究します。

《夏公演》 横浜国際マリンエンターテインメントショー「赤レンガ倉庫」公演に参加予定。

題材「よこはまはじめて物語」開港当時の横浜の物語。

《冬公演》 夏の改訂版と、子ども達が1年間頑張った大作を発表公演します。

《助成金活動》 アサヒボール(株)未成年者飲酒予防基金により、子ども達の飲酒予防社会活動に参加しています。(平成21年度・22年度)

古民具づくりキャンプ

里山の自然の中で昔と変わらない郷土の自然と共に生きることを体験します。

★里山の中で古民具を造る自然体験活動《夏》

- ・夏休みに、上郷森の家でわらじを編み、それをはいて里山を歩きます。
- ・森の枯れ枝を集めて、パーペキューをします。
- ・野菜・肉など、自分たちで、ちょうりしします。
- ・横浜市非常災害用飲料水とその空き缶を使ってご飯を炊きます。

★里山の中で古民具を造る自然体験活動《冬》

- ・冬休みに、上郷森の家の中を歩き探した材料を使って、自然の材料で、正月飾りを創ります
- ・星座の観察をし、冬の大三角形を探します。



高齢者や障害者施設慰問

★民話の紙芝居創りによる施設慰問の社会奉仕活動

子ども達が郷土の民話を元にした、創作紙芝居を創ります。その紙芝居を持って、高齢者施設や障害者施設などを訪問して発表します。そして、折り紙や千代紙などを作って、お年寄りと交流します。高齢者施設の慰問や障害者施設でのイベント「ゲームに日」などでの、ボランティアを通じて優しさや思いやりと、社会性を学んでいます。

世界の民話の読書活動

「多文化共生教育ネットワークかながわ」の、皆様の協力を得て平成23年度より始めます。各国の民話をネイティブな言語で聞き、その国のことを、調べ気候・食べ物・風習などや日本との関係などを話しています。

盲導犬とふれ合う活動

「財団法人日本盲導犬協会」と「パークファーム」の協力を、得て平成23年度から、始めます。盲導犬とふれあい、盲導犬のことをはじめ、働く動物たちに 私たちは何ができるか、何をすべきかを考え、もっと理解します。